

5. 3. 1

佐倉市

教育センターだより

Vol. 59

令和5年3月1日発行／佐倉市教育センター／TEL.043(486)2400 http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0_6.html

ちょっとした工夫から

「8. 8」この数字を見て「これは」と思う方も多いのではないかでしょうか。

この数字は、令和4年12月13日に文部科学省が発表した通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果において、小学校・中学校で「学習面又は行動面で著しい困難を示す」児童生徒数の割合です。

この調査からわかったこと…

- ・行動面より、学習面で困難を示す割合が高い
- ・「読む」又は「書く」、「計算する」又は「推論する」に困難を示す割合が、「聞く」又は「話す」よりも高くなっている
- ・小学校低学年で高い割合となり、年齢が上がるに従って低くなっている
- ・10年前の調査と比べて数値が高くなっている

さて、「8. 8」という数字を改めてみてみると、これは38人学級だとすると1クラスの中に3～4人程度いるということになります。今一度、クラスの子供たちを思い浮かべてみてください。次のようなことが気になる子供がいませんか？

- ・板書などを書き写すことに時間がかかる、写せない子
- ・文章表現（自己表現）が難しい子
- ・何度も話してもなかなか理解してもらえない子
- ・全体で話している内容をスムーズに理解できない子

これに当てはまりそうな子供の顔が浮かんできた方もいるのではないでしょうか。先生方は、どう対応したらよいのか悩み考えながら、子供たちと日々奮闘していることだと思います。

教育センターでは、学校生活を通して心配事がある方に対して、教育相談を行っています。相談を通して、子供の特性を知り、どのようにその特性と向き合い克服していくかを保護者や学校と共に考えています。教育相談を通して、その子の特性の一面が見えてきます。相談結果の報告書によく見られる特性として、次のようなものがあります。

- ・「話を聞いているだけでは、内容を理解することが苦手」
- ・「板書をノートに書き写すことが苦手」

さらに結果を読み進めると、その特性に対してアドバイスがありました。

- ・要点を黒板やボードに書く等、視覚でもわかるようにする。
- ・一度に話す量を減らす、要点をまとめて話すようにする
- ・全部を書くのではなく、要点を決め、印のついている部分だけを書く
- ・タブレットなどで板書を写真に写し、後でゆっくり書く

上記のような工夫は、準備に多くの時間がかかったり、人が必要だったりすることなく、手軽にできそうな事ではあ

佐倉市教育センター所長 田中 雅明

りませんか。ちょっとした工夫で、困り感が克服され、学習への苦手意識を少しでも和らげることができるかもしれません。このような工夫をすることは、どの子にも有効な工夫であると考えます。ちょっとした工夫を日々積み重ねていくことが、学習や学校生活の中で困難を抱えている子供たちにとって、救いになるかもしれません。心配な子がいたら多くの目でその子の様子を観察し、その特性に対して、どんなことができるかを考えてみてください。ちょっとした工夫で、解決できるかもしれません。

また、「低学年で著しい困難を感じている子供が多い」という調査結果から、特に低学年から工夫をすることで、学校生活のリズムがスムーズに身に付き、自分の課題を少しでも克服できるようになっていくかもしれません。さらに、学年や特別支援コーディネーターを中心として学校全体で把握、共通理解をしながら進めてもらえばと思います。学校全体で共通理解をすれば、同じ対応をことができ、課題克服につながっていきます。またこのことは、必要としている子供だけではなく、すべての子供たちにとって、生き生きとした前向きな学校生活につながっていくのではないかと考えます。これから卒業の時期を迎えます。個別の教育支援計画やサポートファイルなどを効果的に活用しながら、次の学校へ引き継いでいただく事が、新しい環境での安心につながるのではないかと思います。

人はだれでも、多かれ少なかれ特性をもっています。そしてその特性を理解し上手に付き合いながら、少しでもスムーズに生活できるようにしているのではないかと思います。子供たちはまだ経験が浅く、自分の特性を理解することができず、うまく付き合ふことができないことから、不安に感じたり拒否反応が出たりしています。自分の特性を理解し、対処法を身につけていくことが、これから社会を生きていく上でとても大切な事ではないでしょうか。学校生活を通して、多くの工夫を身につけさせていきたいものです。

様々な特性をもった子供たちと日々あの手この手と考えながら奮闘してくださっている先生方に感謝申し上げます。さらに子供たちの理解を深めるため、今一度身の回りにいる気になる子に対して、「この子にはどのような特性があるのだろうか、その特性にどう対応すればよいんだろうか、何かできることはないだろうか」と考える機会になれば幸いです。本人の困り感が少しでも解消していくように、教育センターでも一緒に考えていきたいと思います。

令和4年度ももうじき終わろうとしています。1年間教育センターの業務に関しましてご理解・ご協力、誠にありがとうございました。引き続き来年度もよろしくお願いいたします。

学校図書館の役割

～すべての児童生徒の「読む喜び」と「学ぶ喜び」を育むことを目指して～

学習指導要領^{[1][2]}によると、学校図書館には、読書活動の推進のための利活用に加え、各教科等の授業での利活用が求められています。そこで、本号では、市内小中学校における、児童生徒の「読む喜び」と「学ぶ喜び」を育むことを目指した、学校図書館の取組を紹介します。

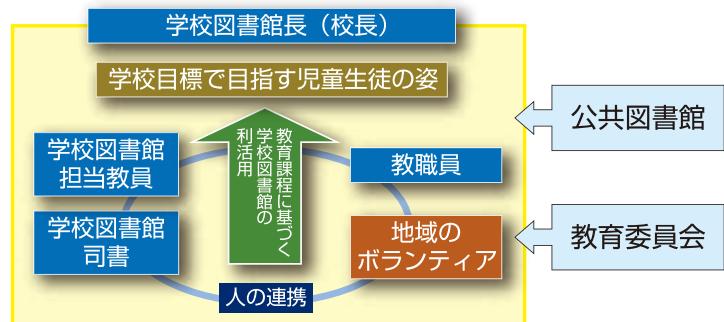
[1]文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編」東洋館出版社 2018年 pp.91-92

[2]文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編」東山書房 2018年 pp.90-91

みんなでつくる学校図書館

学校図書館は、図1のとおり、学校職員が互いに連携・協力して、読書活動や言語活動、探究活動の場として利活用を進めています。

学校職員に加え、地域のボランティアの方々も活躍しています。図書の貸出・返却をはじめ、学校図書館の環境整備や読み聞かせ等、幅広く活動をしています。



児童生徒の様子や各教科等との関連を意識した各学校の取組

各学校図書館では、児童生徒の発達段階や興味関心に合わせて工夫を凝らしています。学校生活や各教科等の授業との関連を意識した活動やテーマ展示の一部について、写真を交えて紹介します。



まとめ

佐倉市の各小中学校の学校図書館では、読書への意欲を高め、各教科等での学習活動を充実させることができるよう、様々な取組を行っています。

今後も、すべての児童生徒の「読む喜び」と「学ぶ喜び」を育むことができるような学校図書館づくりを、学校と地域が連携して進めていくことが大切になると考えます。

「佐倉市適応指導教室」の名称が変わります! 令和5年度より「ルームさくら」へ



令和5年度より、佐倉市適応指導教室の名称が「ルームさくら」に変わります。その理由は、名称を不登校児童生徒やその保護者にとって抵抗感を減らし親しみやすいものにすることで、より身近な存在となり、早期の相談・指導につなげるためです。本誌面では、「ルームさくら」についてご紹介します。

「ルームさくら」が大事にすること

「学校に登校する」という結果のみを目標にせず、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、「社会的に自立する」方向を目指すように働きかけることを大事にしています。

社会的自立とは …依存しないことや支援を受けないということでなく、適切に他者に依存したり、自らが必要な支援を求めたりしながら、社会の中で自己実現していくこと。



＜社会的自立に向け、現在の生活で、支援していること＞

- 自己決定させる。
- 生活のリズムを整える。
- 学習を習慣づける。
- コミュニケーション能力や、ソーシャルスキルを身に付ける。
- 人に上手にSOSが出せる。
- 傷ついた自己肯定感を回復する。

ルームさくら 志津教室 (令和4年度までは適応指導教室)



志津教室の特色は、小集団で学ぶよさを活かした個別学習です。創作活動（プラバン、しおり、紙粘土のマグネット等）や、休み時間の交流等もあり、人との関わりを大切にしています。

友達や相談員のひと言が、やる気を出すきっかけとなることもあります。助け合うことを通して、相手のよさや自分のよさに気付くこともあります。互いを尊重しながら、関わる楽しさを知り、コミュニケーションの輪が広がっていきます。相談員は、学習支援や会話を通して、子供たちの成長を温かく見守っています。

ルームさくら 佐倉教室 (令和4年度までは適応指導教室)



佐倉教室の特色は、3つの小部屋に分かれた個別学習です。自分で計画を立て、決まった曜日、決まった時刻に通級して一定時間学習するという生活パターンができている子もいます。生活のリズムを整え、学習習慣を身に付けることは自立への第一歩です。

また、相談員と会うことを楽しみにしている子供も多く、たわいのない会話を楽しんだり、人間関係や進路についての悩み相談をしたりしています。子供たちが安心して通い、自分の居場所を見つけられるよう、相談員が心に寄り添いながら支援しています。

まとめ

不登校の件数は全国的に増えています。その背景は様々であり、支援のニーズも多様化しています。その中で、ルームさくらは、学校と連携しながら、本人やご家庭の状況をふまえ、本人の気持ちを大切にしながら、支援していきたいと考えています。

不登校にも段階があります。本人の気持ちが、「外に出ようかな」「誰かに会いたいな」「でも学校はまだ難しいかな」と動き、どうしたらよいか悩んだ時には、学校の先生や佐倉市教育センターにご相談いただけたらと思います。

孤独を感じる瞬間が誰しもあるかと思いますが、さりげない会話や、自分に向けられた笑顔が、一日を明るくしてくれることを、ルームさくらで実感していただけたら何よりです。



ICTを活用したことばの教室の取り組み

～佐倉小学校ことばの教室の研究成果より～

千葉県では、令和3年度、令和4年度の2年間、文部科学省から「ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方の調査研究」を受諾し「遠隔による自立活動の効果的な指導を、障害種別に明らかにする。」をテーマに取り組んできました。

その中で、佐倉市は言語障害分野の指定があり、佐倉小学校のことばの教室に研究校として、2年間取り組んでいただきました。今回は、2年間の取組からその一部を紹介させていただきます。

これまでのことばの教室

話し方や発音などに課題がある児童に対して、週に1時間程度、1対1の個別指導を行います。

◆対面での個別指導が中心

⇒コロナ禍では、マスク着用。

感染対策の必要性。

指導定着にこれまでより時間が必要。



◆ことばの教室の開設は市内5校のみ

⇒ことばの教室が開設されていない学校の児童が指導を受ける場合は、保護者が送迎して、通う必要がある。

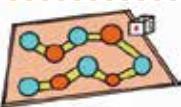
ことばの教室では、話し方や苦手な発音について対面で授業を行います。正しい音を聞き分けること、正しい舌の使い方、口の開け方等の練習を行います。繰り返し楽しく活動に取り組むことで、正しい発音や話し方を目指しています。

今回の研究では

授業の導入では、オンラインの画面を通して楽しく活動を行うために、児童の興味関心に合わせたオリジナルの双六を使いました。子どもと教師の両方に同じ双六を準備し、同時にコマを進め止まったマスの指示に従いながら、ゲーム感覚を取り入れて発音練習を行いました。



他にも、画面の中で、お互いの表情がよく分かるようにカメラの角度を工夫すること、発音の練習に合わせホワイトボードやカードを使ってタイミングよく指示を出すことで、意欲的に活動を行うことができました。見る範囲が、画面に限定されることで、意識を集中することもできました。



オンラインでの指導を行う望ましい条件

- 対面での指導を通して十分に人間関係が出来ている。
- ことばの教室での学習ルールが定着している。
- 基本的な、発音の練習方法を習得している。



初回からのオンラインは適さない
ことばの学習に慣れてきてから実施

研究の成果から考えるこれからのことばの教室

ICTを活用した研究の主な成果

- ・対面ではなく、画面に向かうことで相手に伝える意識が芽ばえ、一音一音ていねいに発音した。
- ・オンラインの映像や録画映像を見て、自分の口の形を確認することで正しい音作りの定着につながった。
- ・コロナ禍でも、マスクを外して、舌のトレーニングや口の体操を行うことで、指導の継続につながった。
- ・ことばの教室の担当と在籍学級担任がオンラインで情報共有を行い実態把握や授業の工夫・改善が進んだ。
⇒より個に応じた効果的な指導につながった。

自校通級・他校通級とともに
オンライン活用で指導充実へ



- ・オンラインでの授業配信は、指導の様子が分かりやすく貴重な研修機会となった。

校内研修をオンライン配信で専門性向上へ

実践報告会の様子はオンデマンドで配信予定
配信期間：令和5年2月中旬から8月下旬まで

これからのことばの教室

1 音作りの段階では…

・正しい舌の形や動きを獲得するための試行錯誤を繰り返す。直接舌に触れる・体の緊張をほぐす等を行うため対面指導が望ましい。

2 発音定着の段階では…

オンラインを活用した指導も効果的

対面指導 + オンライン

ハイブリッドな指導へ

佐倉小学校の先生方、2年間本当にありがとうございました。今回の沢山の成果に至るには、多くの苦労があったと存じています。

教育センターでは、今後、市内の他のことばの教室でも、オンラインでの指導を活用できるように、サポートを続けながら、更に効果的な指導になるよう試行錯誤を続けていきます。また、授業研修会のオンライン配信も積極的に行っていくことで、ことばの教室の先生方の専門性向上へ繋げていきたいと考えています。